

和地ひとみレポート

No.95



いよいよ、ルート見直しが本格化

ちょこバスの利便性向上は実現するか？

■ちょこバスのあり方に関する懇談会実施

…H21年9月のルート変更により不便になったとの声が多い東大和市のコミュニティバス「ちょこバス」。そもそもの運行開始の基本的な目的は「既存のバス路線では対応しきれない地域を中心に運行し、公共交通空白地域を解消する」とされながらも、ルート変更により朝晩と日中のルートが違ふ、ルートが長いために運行間隔が1時間半に1本となる時間帯がある、駅への乗り入れがないなど様々な問題を抱えているだけではなく、不便さから利用者も減少し、市からの赤字補填の金額も年間約4000万円となっているなど財政的な問題も抱えています。

…現在、市では『東大和市地域公共交通会議』において、ちょこバスの利便性の向上のための協議を行っていますが、今後のルート改正等の検討に役立てるために公民館、市民センターなどを会場とし市民の意見を聴取するための懇談会を8月に5回開催。このほど、懇談会で出た意見や今後のルート見直しに関する考え方についての取りまとめが発表されました。

■新たなルート案は

…今回の懇談会で出た運行ルート等に関する主な意見は「本数を増やしてほしい」「時間帯でルートが変わってしまっていて分かりにくい(市役所まで行って、帰るバスがなかった)」「ルートが長く、目的地まで時間がかかる」「わかりやすい時刻表にして欲しい」「最低でも1時間に1本は走らせて欲しい。30分に1本くらいが理想」「病院、公共施設、駅へのアクセスを良くしてもらいたい」「元のルートに戻して欲しい」など。これらの意見は、懇談会を開催する前から市民から出ていた意見と同じです。このような現状を踏まえ、懇談会では事務局作成の変更後ルートの検討案が示されました。

【新たなルート検討案の考え方】

- ・ 距離が長いルートを廃止し、複数のルートを組み合わせる。
- ・ 駅に乗り入れる。
- ・ 各ルートの乗り継ぎにより移動をスムーズにする。
- ・ 運行間隔は少なくとも1時間に1本にする。
- ・ 路線バス(民間、都営バス)と共に市内の公共交通網を形成していく。

…示されたルート検討案は①市役所、上北台駅、湖畔地域など市の北側から武蔵大和駅を経由し市役所に戻るという内回り外回りの循環運行ルート(終日約60分間隔)②玉川上水駅、市役所、東大和病院、東大和市駅の往復運行ルート(終日約60分間隔)の2ルートの組み合わせ。また、その2ルートで網羅できない芋窪街道から西側のエリアと仲原、清原、向原、新堀など市の東南の地域についてはちょこバスではなくコミュニティタクシーの運行を検討するエリアとして提示されました。ここで出てくる『コミュニティタクシー』とは、定員10人以下の小さな車両でルート運行をするもの。タクシーといえども、家から目的地まで行けるものを想定しているのではなく、小さな車両でちょこバスのように運行するものを指しているそうです。

■料金、財政的な問題は

…今回、示されたルート検討案は、確かに公共交通空白地域をカバーし、市内全域を網羅しています。また、検討しているように1時間に1本の運行で、コミュニティタクシーを含んだ様々なルートの乗り継ぎがスムーズになれば、利便性は現状より向上するでしょう。また、今後の超高齢化社会に必要とされる移動手段の確保及び環境負荷の少ない都市構造の構築というコンセプトにも沿った案といえます。

…しかし、一方では財政的な問題が解決されなければ、せっかく利便性を向上させても、維持することが困難になってしまいます。ルートが2つに増えれば、既存のバス車両だけでは不足車両を増やす必要がありますし、コミュニティタクシーを導入する場合にはその分の車両購入、人件費などもプラスされます。ちょこバスの運賃は現状100円均一です。懇談会では運賃を上げて利便性を向上させて欲しい、運賃値上げは慎重にして欲しいという双方の意見が出ていますが、今後は利便性と持続性、また、民間バス路線を利用する地域との公平性ならびに受益者負担ということも考慮し、距離に応じた料金設定が必要ではないかと和地ひとみは考えます。市では今年度末までにルート案を決定し、その半年後にはルート変更を実現したい考え。また、同時にコミュニティタクシーも導入したいとしています。利便性と持続性=収支もきちんと考えた改正をすべきと考えます。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート

「身近なようで知らなかった市政、議会。伝えることがスタートだと思えます。」

【プロフィール】1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。／『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後もベンチャー企業を選び不動産投資会社に勤務。／同じビジネス界出身の加藤公一代議士との出会いに触発され、政治への道を志して2010年末に退社。現在、新人東大和市議会議員として、日々、奮闘中。



東大和市 市議会議員

和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP: <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp 【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102